

もしもの

水害に備える

近年、令和元年東日本台風（台風19号）や令和2年7月豪雨などの記録的な大雨による災害が、毎年のように発生しています。

さらに今年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、災害時に安全を確保するにはどうすればよいか考える必要があります。

自然災害は、いつ発生するかわかりません。そのため、日ごろからの備えが大切です。自らの命は自らが守るという意識を持ち、災害発生時にとるべき行動を前もって確認しておきましょう。

今回は、水害を中心とした災害への備えについて紹介します。

災害が起きる前に確認しておきたいポイント

- 危険箇所・避難経路を確認する
- 非常時の持ち出し品を用意する
- 災害時にとるべき行動
- 家庭備蓄を用意する

危険箇所・避難経路を確認する

ハザードマップをチェックしよう

- 自分が住んでる地域のハザードマップを確認して、自宅付近の災害リスクや危険箇所を調べ、避難ルートや避難方法を検討しておきましょう
- 町は防災マップを震災前に作成していましたが、震災の経験と現在の状況を反映するため、更新中です。また、各種災害におけるハザードマップの作成を進めています。詳しくは、環境対策課にお問い合わせください

全国のハザードマップが確認できます

国土省「ハザードマップポータルサイト」で、地域とマップの種類を選ぶと、全国のハザードマップを入手することができます。



町内の災害想定箇所

<土砂災害危険箇所>

- ・中屋敷地区

<洪水浸水想定区域>

- ・熊川水系、夫沢川水系、小入野川水系の河川周辺

<津波浸水想定区域>

- ・熊川地区、小入野地区の沿岸部
- ・熊川、夫沢川、小入野川の河口周辺

災害時にとるべき行動

大雨・台風の危険が近づいたら

- 不要不急の外出は控えましょう
- 最新の防災情報を入手して、早めの防災行動がとれるようにしましょう
- 非常時の持ち出し品を準備して、いつでも避難できるようにしておきましょう
- 用水路や周辺の見回りなど、屋外での作業は中止しましょう
- 浸水に備え、食料や衣類、寝具などは、高い場所へ保管しましょう
- 断水の危険性も考慮し、浴槽に水を張っておきましょう

最新の防災情報を知ろう

- 気象庁「防災情報」ページ
天気予報や気象警報の情報など



- 国交省「河川の防災情報」ページ
川の水位情報や洪水予報など



避難の呼びかけがあったら

- 警戒レベル3や4に相当する情報が出たら、危険な場所から避難してください
 - 周囲に声を掛け合って、安全・確実に避難してください
- ※避難情報は必ず発令されるものではありません。危険を感じたら速やかに避難してください

町内の避難所

- ・大熊町役場本庁舎
 - ・大熊町住民福祉センター
- ※災害の状況によっては、協定を結んでいる企業の事務所を避難所とします
- ※帰還困難区域内にいる場合は、速やかに退出してください

新型コロナウイルス感染症が心配なとき

避難とは、公的な避難所への退避だけではありません。避難所で新型コロナウイルス感染症が拡大するリスクを考え、分散避難することも検討してみましょう。

例えば…

- ・安全な親戚や知人の家
- ・安全性が確保されていれば在宅避難
- ・安全な場所（避難所の駐車場など）で一時的に車中泊やテント泊

警戒レベル

災害時に市町村から発表される5段階の警戒レベル。テレビ等では、色付きで表示されています。色は、白、黄色、赤、紫、黒の順で警戒レベルが上がっていきます。

災害発生時には、ご自身のお住まいの地域がどの色になっているのかを確認し、早めの行動を心掛けましょう。

警戒レベル	住民が取るべき行動	避難の情報	雨の情報	川の情報
5	命を守って！	災害発生	大雨特別警報	氾濫発生情報
4	危険な場所から避難	避難勧告 避難指示（緊急）	土砂災害警戒情報	氾濫危険情報
3	高齢者等は避難	避難準備・ 高齢者避難開始	大雨・洪水警報	氾濫警戒情報
2	避難方法を確認	—	大雨・洪水注意報	氾濫注意情報
1	最新情報に注意	—	早期注意情報	—

災害時にとるべき行動

避難する時の注意点

- できるだけ2人以上で避難しましょう
- 浸水した道では長靴は危険です。運動靴で移動しましょう
- 水中のマンホールや側溝に落ちてしまう可能性があるため、長い棒などを杖代わりに使用しましょう
- 車での避難は、交通渋滞の原因や緊急車両の妨げになるので、徒歩で避難しましょう
- ※ただし、足の不自由な方や避難所までの距離が遠い方は、早めに車で避難してください
- 暗くなってから大雨の中を避難するのは危険です。特に高齢者や子供のいる家庭では、暗くなる前に避難しましょう

要配慮者を支援しよう

高齢の方、障がいのある方、妊産婦、乳幼児、外国人の方などの避難は、1人では難しい場合があります。

日ごろから家族や近隣、友人、知人など周囲の方と協力できるようイメージしておくことも大切です。

安否確認の方法を決めておこう

家族が別々の場所にいるときに災害が発生した場合でもお互いの安否を確認できるよう、日ごろから安否確認の方法や集合場所などを、事前に話し合っておきましょう。

災害時には、携帯電話の回線がつながりにくくなり、連絡がとれない場合もあります。その際は、災害用伝言ダイヤル等を利用しましょう。

伝言ダイヤルを利用しよう

災害用伝言ダイヤルは、「171」に電話をかけると伝言を録音でき、電話番号を知っている家族などが、伝言を再生できるサービスです。

追加対策①

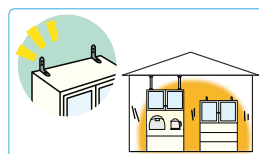
地震への備えも忘れずに

岡 富岡消防署 予防係 ☎0240-22-2119

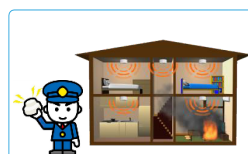
○地震への事前対策



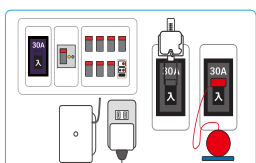
住まいの耐震性を確保する。



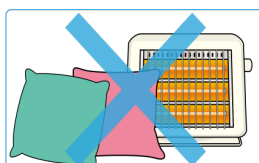
家具等の転倒防止対策（固定）を行う。



住宅用火災警報器を設置する。



地震ブレーカーを設置する。

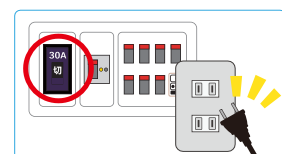


暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かない。

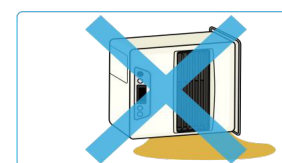


防災訓練へ参加し、発災時の対応要領の習熟を図る。

○地震発生直後の対応



停電中は電気器具の電源プラグをコンセントから抜き、避難するときはブレーカーを落とす。



石油ストーブや石油ファンヒーターからの油漏れの有無を確認する。

非常時の持ち出し品を用意する

すぐ避難できるように備えよう

自宅から避難し、避難所等で生活することを考えて、非常時の持ち出し品を用意しましょう。持ち出し品は、リュックサック等に入れて、すぐ持ち出せるようにしておきましょう。もちろん、無理なく持ち運べる量にまとめておくことが大切です。

乳幼児や女性、高齢の方など家庭の実情に合わせて、必要になる持ち出し品を決めましょう。

非常持ち出し品の例

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 飲料水（1人1日1.5ℓで3日分） | <input type="checkbox"/> 万能ナイフ |
| <input type="checkbox"/> 食品（レトルト食品、缶詰、ビスケット、チョコレートなど、調理せず食べられる非常食を3日分） | <input type="checkbox"/> マッチ、ライター、ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 貴重品（通帳、印鑑、現金、身分証明書、健康保険証） | <input type="checkbox"/> 救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒薬、常備薬など） |
| <input type="checkbox"/> ヘルメット | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> ブランケット |
| <input type="checkbox"/> 軍手、丈夫な素材の手袋 | <input type="checkbox"/> 衣類、下着 |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> タオル |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 携帯充電器、予備電池 | <input type="checkbox"/> 安全ピン |
| <input type="checkbox"/> ペン、ノート | <input type="checkbox"/> ポリ袋 |
| | <input type="checkbox"/> ガムテープ |

感染症対策用品

感染症対策として各自で用意しましょう。避難所では、数に限りがあります。

- マスク
- アルコール消毒液
- せっけん、ハンドソープ
- ウェットティッシュ
- 体温計

持病をお持ちの方

- 「2～3日分のお薬」や「お薬手帳」は必ず持参しましょう
- 食物アレルギーがある場合は、できるだけ食べられるものを用意しておきましょう

東日本大震災の時の
課題を生かしましょう

追加対策②

ペットの防災対策も忘れずに

災害時、ペットを守れるのは飼い主だけです。まず飼い主自身の安全を確保し、避難する場合はペットと一緒に避難場所に避難（同行避難）しましょう。ともに安全に避難し、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日ごろからの心構えと備えが大切です。

ペットの防災対策の例

- 飼育ケージを固定、転倒を防止する
- キャリーバッグやケージに慣らす
- マイクロチップや名札を付ける
- ペット用品を備蓄する
- 避難所や避難ルートを確認する

ペットの災害対策ガイドラインを確認しよう

環境省「ペットの対策」ページでは、「飼い主がとるべき行動をまとめた「人とペットの災害対策ガイドライン」などを公開しています。

